

研究経過報告書

令和5年9月22日

研究員 (留学者)	所属 政経学部 職 教授 氏名 織田 健志
派遣期間	令和5年 4月 1日 ~ 令和5年 9月 15日
研究主題等	戦後思想における保守主義の形成
報告事項	(研究活動の概要、内容、成果等、添付書類の見出し等)
	1. 研究活動の概要
	戦後思想における保守主義の形成について、「オールド・リベラリスト」と呼ばれた知識人の政治思想研究を通して考察した。具体的には、戦前より活躍していたジャーナリストの長谷川如是閑、雑誌『心』の常連寄稿者で、大正教養主義世代の「オールド・リベラリスト」に共感を示した林健太郎について、東京大学法学部図書館・同総合図書館・同志社大学今出川図書館・同人文科学研究所図書館にて、資料調査および読解を進めた。
	さらに基礎的研究として、保守主義を中心とする戦後思想に関する最新の研究成果である常木淳『国民国家とは何か』（東京大学出版会、2023年）、および宇野重規『日本の保守とリベラル』（中公選書、2023年）について、著者参加の合評会で報告を行った。また、長谷川如是閑の関連研究として、北吟吉（北一輝実弟）が主筆を務めた雑誌『祖国』所収の文献の調査も、東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センターで実施した。なお『祖国』

報告事項	(研究活動の概要、内容、成果等、添付書類の見出し等)
	は残存数が少なく、同センターはほぼ全号所蔵している数少ない研究機関である。
	2. 研究成果
	派遣期間中の研究成果は以下のとおりである。
	① 【報告】 「「日本」への問い——長谷川如是閑の「日本的性格」論再考」 (同志社大学人文科学研究所第21期第14研究「日本保守主義の再検討：「守る」対象の二重構造をめぐって」2023年5月26日、同志社大学今出川キャンパス)
	② 【報告】 「書評：常木淳『国民国家とは何か』 (東京大学出版会、2023年)」 (科学研究費基盤B「近代日本における政治思想、社会規範、経済発展の相互関係に関する総合的研究」 (18H00867、2018年度～2022年度) に関連する研究会での報告、2023年6月25日、国士舘大学世田谷キャンパス)
	③ 【報告】 「リベラリズムの苦難——林健太郎と丸山眞男を手がかりに——」 (日本現代思想史研究会 [北河賢三早稲田大学名誉教授主宰]、2023年7月2日、Zoomで実施)
	④ 【報告】 「保守と保守主義のあいだ——宇野重規『日本の保守とリベラル』序章・第1章・第4章・終章——」 (同志社大学人文科学研究所第21期第14研究「日本保守主義の再検討：「守る」対象の二重構造をめぐって」2023年8月24日、同志社大学今出川キャンパス、他の報告者：上田美和共立女子大学准教授・城下賢一大阪医科歯科大学准教授)
	なお、①の成果は政経学部の紀要である『政経論叢』に論説として、②は文章化のうえ政治研究所の機関誌『政治研究』にそれぞれ公表する予定である。また、④もできるだけ早いうちに論説にまとめて公表する。

<p style="text-align: center;">告 事 項</p>	<p>(研究活動の概要、内容、成果等、添付書類の見出し等)</p>
	<p>3. 今後の教育・研究にどう活かすか</p>
	<p>今回の学外派遣中に遂行した研究は、報告者が担当する講義科目である「日本政治思想史A・B」「近代日本政治史」「現代日本政治史」の授業内容とも関連が深い。研究成果をふまえて、当該諸科目の内容の充実を図り、授業を通じて学生にその知見を還元したい。</p>
	<p>また、研究面では、報告者が現在遂行している科学研究費基盤C「戦後思想における保守主義の形成——竹山道雄と林健太郎を中心に——」(22K01338、2022年度～2024年度、研究代表者：織田健志)と密接に関係するため、科研費関連の研究成果の公表をよりいっそう進めてゆく。また目下、修士課程以来取り組んできた長谷川如是閑研究を主題とした単行本の出版も、成文堂と打ち合わせを行っている。今回の研究成果①について、刊行予定の単行本の内容に反映させたい。</p>
	<p>4. 謝辞</p>
	<p>令和5年4月1日より校務や教育負担を免除していただき、研究活動に専心することができた。今回このような貴重な時間を得て、いくつかの懸案だった研究課題を進めることができた。諸事繁多の折、半年間もこのような機会を与えていただきましたこと、重ねて御礼申し上げます。</p>
	<p> </p>
	<p> </p>
	<p> </p>
	<p> </p>
	<p> </p>
	<p> </p>